

本荘地域における学校再編について（提言）
（統合小学校使用校舎・校名）

令和5年3月10日

本荘地域学校再編委員会

提言1：本荘南中学校区統合小学校の「使用校舎」及び「校名」について

「本荘南中学校区統合小学校準備委員会」では、統合小学校に通学する児童や保護者、地域の方々の立場を重視しながら、令和3年に委員へのアンケート調査を実施するとともに、2カ年に亘って委員会協議を重ねてきた。

また、校舎の劣化状況や学習環境を把握するために実施した、鶴舞小学校、尾崎小学校両校の「校舎構造体等劣化状況調査」や「施設環境調査」の結果を参考に、協議してきた。

協議するにあたって準備委員会が最も重視したのは、「学区内の児童及び保護者の視点」であり、当再編委員会も同様である。

以上の経緯を踏まえ、「児童ファースト」の視点に立ち、次のとおり提言する。

1. 使用校舎案

本荘南中学校区統合小学校として使用する校舎は、「**尾崎小学校校舎**」がふさわしい。

（選定理由）

学区内の児童及び保護者の視点に立ちながら、利便性や学校環境などを総合的に検討した結果、次の点で「**尾崎小学校校舎**」が適していると考える。

- ・尾崎小学校は学区のほぼ中心に位置していることから、鶴舞小学校と比較して通学距離が短く通学しやすい。（鶴舞小学校を使用した場合、学区内の半数以上の児童の通学距離が延びる。）
- ・尾崎小学校周辺は、鶴舞小学校周辺と比較して、朝の交通規制がないため、送迎を要する場合でも安心である。
- ・両校とも大規模な改修を行うことにより、改築しなくとも現校舎の長寿命化を図ることができる。尾崎小学校は、鶴舞小学校と比較して改修経費を抑えることができる（「校舎構造体等劣化状況調査」、「施設環境調査」より）。
- ・尾崎小学校改修の際、児童は通常の学校生活を送りながら工事を進めることができるが、鶴舞小学校の場合は、その間約2年間校舎を使用することができない（工事の際は、児童が一時引っ越しを行い、校舎を空ける必要がある）。

2. 校名案

本荘南中学校区統合小学校の校名は「鶴舞小学校」がふさわしい。

(選定理由)

鶴舞小学校は150年の長い歴史を持つ伝統校である。また、尾崎小学校は児童数の増加により、平成3年に鶴舞小学校から分かれて誕生した学校である。この度の統合は2校が再びひとつにまとまることであり、両校の歴史的な経緯を踏まえると、「鶴舞小学校」とすることが自然であるとする。

提言2：本荘東中学校区統合小学校の「校名」について

本荘東中学校区統合小学校準備委員会では、令和3年度から校名候補の協議を始め、4年度には学区内の児童生徒を含む市民を対象とした校名候補の募集を行うなど、広く意見を募りながら、新小学校にふさわしい校名案について協議を重ねてきた。

その結果、公募した校名候補の中で最も得票数が多く、かつ広域的な表現でわかりやすいとの理由から、「本荘東小学校」が第1の候補として選定され、次に、他校との整合性や、地域に相応しい象徴的な意味合いをもつ名称として「日住小学校」が第2の候補として選定され、この2つの校名案が当再編委員会に提案された。

当再編委員会では、準備委員会の意見を尊重し、この2つの校名案に改めて順位を付し、提言する。

1. 校名案

第1候補：本荘東（ほんじょうひがし）小学校

(選定理由)

- ・東中学校区は広域であることから、地域に偏らない包括的な意味合いを持つ名称がふさわしい。
- ・本荘地域のエリアを示した校名であり、学校の位置など思い浮かべやすい。
- ・本荘東中学校に隣接しており、調和のとれた、わかりやすい名称である。
- ・学区内に公募した際、得票数が最も多かった名称でもある。

第2候補：日住（ひすみ）小学校

(選定理由)

- ・小学校らしい、優しいふんわりした名称である。
- ・本荘地域の他の小学校名と調和がとれている（鶴舞・新山・日住）。
- ・日住山は、本荘中心部から真東にあり、この山陰から日が昇ることから、先人は太陽の住みかと考え、「日住」と名付けたと伝えられている。「日住」には、「本荘の東」「太陽」というイメージが込められている。
- ・日が昇る象徴の山のイメージから、「希望」を持てる、感じる名称である。

<付 記>

- 統合後は、「新生鶴舞小学校」として、創立150年の鶴舞小学校の歴史を引き継ぎながら、両校の校風や特色を活かした取組を期待する。
- 学校改修にあたっては、「校舎構造体等劣化状況調査」及び「施設環境調査」の結果や準備委員会での意見などを踏まえながら、子供たちの将来の学びの姿を見据えて整備を進めていただきたい。
- 統合の際、各校の重要な記録や資料について、今後の保存のあり方や展示など慎重に検討していただきたい。
- 今後の学校再編により生じる空き校舎については、校舎の老朽度や状況を十分把握し、活用できる校舎については、地域活力の持続や向上に役立てる視点を大切にして、「まちづくり」の面からも有効な活用について検討していただきたい。
このことには、持続可能な社会を目指す国連SDGsの現地教育の面でも大切な視点であると考えます。
- 市内各学校は市民の避難場所にもなっている。その位置づけを再確認し、尾崎小学校改修に関しては、新たな防災機能の付加などを検討していただきたい。